

地域懇談会実施報告書

◎自治会名 栄町

◎開催日 平成 24 年 7 月 17 日(火)

◎時間 19:00 ~ 20:35

◎開催場所 大原町集会所

◎参加人数 29 人

◎懇談内容 別添 会議録



行政側参加者氏名

庶務課市民活動支援係 竹村 静哉
勝野 和子

庶務課秘書係 横山 雅史

記録者氏名

庶務課市民活動支援係 勝野 和子

栄町地域懇談会会議録

平成 24 年 7 月 17 日(火)19:00～

大原町集会所

1 開会 栄町自治会長

2 自治会長あいさつ

今日は、大変お忙しい中栄町の懇談会に来ていただきありがとうございます。市営住宅の A 棟、B 棟のエレベーターが今年中に完成の予定で工事が行われる。お礼を言いたい。今日の地域懇談会が有意義なものとなるようお願いしたい。

3 市長あいさつ

こんばんは。今日は3連休の後、またお仕事でお疲れの後にご出席いただいたこと、また、栄町の皆さんには定期的に懇談会を開き、意見交換の場を設けていただいていることに心から御礼申し上げます。今までも栄町の皆さんには、懇談会、自治会の陳情、要請等様々なご意見や要望をお寄せいただいている。すべてが今日解決するわけではないが、具体的な提案をいただいているものもあり随分解決に向かっていく。

今日は大町市政の当面している課題5点についてご説明し、ご意見をいただきたい。今日の懇談会の準備をしていただいた山岸自治会長はじめ多くの役員の皆さんに、心から感謝を申し上げます。

まず1つ目は水害の問題。九州を中心に豪雨災害が起こり、一晩で28人もの尊い命が失われた。今まで何十人もの命が失われるということはそうはなかった。最近では相当量の雨が一気に降り、大規模な河川の氾濫が起こる。昨年も紀伊半島、あるいは福島県と新潟県で大きな被害になった。昔はこんな大きな災害がしょっちゅう起こることはなかったが、地球温暖化で天候の荒れ方が年々激しくなっているようだ。幸い大町は、大きな河川が2つ流れているが、国土交通省の治水ダム等が3つあるおかげで、雨が降り続いても高瀬川の氾濫はまずない。44年の大水害の後には目立った水害はない。これからも安心して暮らしていける環境づくりを進めていかなければならない。人事を尽くして天命を待つ、人ができることは一生懸命努力する、その上で最後は天の裁きを受けるということになる。私も自然災害だからとあきらめるのではなく、人間としてできること、行政としてできることは進めていきたい。その中で今具体的に動いているのが砂防事業である。高瀬川本流はほぼ水害の被害はなくなったが、箆川と鹿島川は上流で治水対策が十分施されていないので、大水の被害が心配されるのはその2つの川である。箆川は雨が降ってもその水は伏流水となって染み込んでし

まい、もともと大きな流れはない川であるが、現在、くろよんロイヤルホテル付近のか所で砂防事業が行われている。鹿島川は上流の鹿島集落のあたりで自然景観を生かした治水対策を、国土交通省松本砂防事務所で行っている。徐々になので10数年かかっているが、完成の折には水害や土砂崩落等の心配がなくなると期待している。

2つ目は八坂地区にある公共施設明日香荘を指定管理者として経営していた株式会社あすかの杜が、4月に経営破たんしたこと。正式に破産管財人による手続きと残った財産を集め債権者に分配する作業が進められている。市も2,500万円の出資をしている。これは出資を決めた時点で、株式会社の経営が破たんした時はただの紙切れになるというリスクを商法上負っているが、それを納入業者、従業員の給料に充てて補償しても、債権者に債務を履行できない状態になり破産ということになった。

市の役割は2つあるが、公共施設明日香荘を設置している立場として、市民の皆さんにも愛され地域でも大事にされている公共施設なので、できるだけ早く再開できる段取りをつけたい。これは予算の補正も伴うので議会の議決も必要になるが、7月中には指定管理者の新たな選定の方向に入りたい。新しい指定管理者が決定した時点から準備に入り、できたら10月から遅くても11月中旬までには全館の再開をしたいと準備を進めている。温泉施設、レストランについては、もう少し早く10月早々には再開したいと考えている。議会の皆さんにお諮りして道筋をつけていきたい。もう1つの市の役割は、どうして破産という結果になったのかをはっきりさせることである。その1つには粉飾決算がある。会計事務所の明日香荘担当者が、会社側からの要請で4年、5年に渡り粉飾決算をしていたということがわかっている。毎年赤字が出ていたにもかかわらず、その赤字を隠していたために抜本的な経営改善がされず、また市の緊急支援、金融機関からの支援ができないまま今日に至ってしまった。粉飾さえせず明確な経営の実態が2年、3年前にわかっていたら破産に至らない結果もあったわけだが、結果的には破産ということになってしまった。株式会社あすかの杜の取締役会、市の事務調査委員会で調べてほしいこともあった。しかし、なおわからないところも残っている。今後どのような説明の方法があるのか、議会でも答弁してきたが、弁護士や警察とも相談しながら進めてきている。私自身も、徹底的な説明は避けては通れないし果たしていかなければならないことを決意している。多くの心配をおかけしていることを改めてお詫びしたい。

3つ目は、ごみ処理施設の新しい候補地の選定について。市内でも何カ所かの自治会で検討を進めている。北アルプス広域連合の北部3市村でそれぞれ別々に処理しているごみ処理施設が、それぞれ老朽化が進んで新しい施設の建設をしなければならなくなった。新しい施設の建設は協力して1つの施設を建設しようということで、調整に7年かかっている。最初は白馬村の飯森地籍、2番目は大町市の三日町と2つの候補地を選定して調整を進めてきたが、2つとも地元の皆さんの合意をいただくこと

ができなく断念した。特に三日町は、公募の市民の皆さんや様々な専門家に入っただけで、1年間に渡り10回を越える候補地選定委員会を開き調整して絞り込んだがなかなか説明がいき渡らず、また昨年の東日本大震災、東電の原発事故で、ごみ処理施設といえども絶対ということはないという不信感から、最後は住民投票で「嫌なものは嫌」ということで反対を受け、断念せざるを得なかった。今年、広域連合で3回目の候補地を選定することになったが、今回は住民の皆さんの同意が得られた地区に手を挙げていただくという方法にした。その時地域の課題と一緒に提案していただき行政もその課題と一緒に解決していく中で、ごみ処理施設を建設していきたいと提案した。市内でも自治会の内部で検討している自治会がいくつかある。大町市だけでなく白馬村、小谷村でも可能性のある地域については相談いただいていると聞いているが、秋までには広域連合に提案をいただいてその中から適地を絞り込んでいきたいと考えている。私は真摯に検討いただいているのを見守り、どのような地域振興策が可能であるか一緒に考えていく準備をしている。

4つ目の課題は大町病院の地域医療の拠点としての再生、そのための医師や看護師の確保の問題について。幸い平成23年度の決算の状況は単年度で黒字の決算となる。7,000万円の黒字は実際に投入した金額から言えばわずかだが、18年ぶりの黒字である。22年度の決算でもだいぶ赤字幅は減少してきていたが議会とも相談し市から繰り出しをしている。市からの繰り入れを含めての数字だが、黒字になったということは病院の医師、看護師が医療の分野でも力をつけ、患者の皆さんに心のこもった対応をし、安心して医療を受けられる体制が整ったということである。また専門の部署を配置してより精度の高い手法で請求事務を行うよう改善を図ったことで、経営の環境がより整った。今年の4月からは退任や転勤で医師の補充ができず、特に内科の医師は常勤の先生が4人の状態である。信州大学や県に医師の派遣をお願いしてきているが、これからはさらに強化していかなければならない。

明るい話題もある。大都会で新規の先生方に対する病院説明会(レジナビ)という会合がある。お金のかかることではあるが、大町病院も数年前からそうした場所に参加している。今年は大阪であり大町病院のブースの隣に県立病院機構、こども病院等大きな病院のブースがあった。若い先生方は大きな病院に並んでいて大町病院は閑散としていた。そんな中で県の担当者が、「あちらは長野県の大町病院です。頑張っている病院です。」とわざわざ案内してくれた。まだ成果として表れていないが、1人の先生から大町病院を見たいと申し込みがあった。頑張っていれば必ず誰かが助けてくれる。病院だけでなく市民の皆さんの応援をいただいて頑張っていきたい。

最後に5つ目の課題の、工場誘致と市内の企業の振興について。今までも工場誘致に関しては私自身も東京、大阪、名古屋を一生懸命回ってきた。大町市内で事業を展開している企業の皆さんにも、できるだけ市の制度融資を使って応援をしたいと考えている。東洋紡の跡地はホクトが立地して11年になるが、残りの3/4の内の1/4

を使って、大阪に本社のあるエアーウォーターの水の工場の子会社が立地し操業することになった。地元の企業が請け負って、残っていた東洋紡時代のコンクリートの地下構造物がだいぶ撤去され、侵入道路もできた。整地が終わる9月頃から建物の建設が始まり、来年の3月までに機械設備の据え付けを終え、4月から製品を出荷していくという。ペットボトルのような小さいものではなく、家庭用に宅配したりお店でも売る12リットル入りの大きなボトルを製造し、大都市、日本中に販売する。エアーウォーターは日本に3つの水の工場を操業していて、その3つと比べても大町の水の質と量ともに類い稀なるいい水であると、会社が記者会見で表明した。大町の水は品質も味も抜群の水だと評価してくれている。スタート時は約10人の従業員で5億円前後の投資で工場を造ることになっている。水の売れ行きが順調であれば拡大ということもなってくる。期待をしている。5年前にスタートしたアルプスウォーターは、スタート時に8名だったのが現在51人の従業員である。毎年事業を拡大し、工場も2度増設し3回目の増設も計画が進んでいると聞いている。大町でしか得られないおいしい水や空気、地域の食材などを加工するような産業を重点的に誘致していきたい。

以上5つの解決をしなければならない課題と進捗状況について報告した。皆さんからご意見をいただき、栄町が抱えている課題についても提言をいただき、話し合いをしたいと思う。

出席者

栄町の市営住宅が平成17年の10月に完成した。6年間にわたり大きな予算をつけていただいて感謝申し上げます。念願のA棟B棟のエレベーターを、今年つけていただけるということで感謝しているところである。高齢者も安心して安全なエレベーターを利用できるということをうれしく思う。

住宅の完成により若い方が入居してきて児童も増えている。保護者からの強い要望として、遊具を付けた遊び場がほしいと声が出ている。自治会としては、行政の補助をいただく中で昨年あたりから3年くらいかけて3つくらいの遊具を設置できたらと計画していたが、用地がなくては進行しない。自治会として1案、2案くらいあげて市に相談したがまたご指示いただきたい。

また通学路の整備ということで、場所は野口の岡谷酸素の看板のある場所から中原の信号機まで朝見守りをしているがそこを通る児童が約70人いる。子供たちは通るのに非常に気を使っているように思う。できれば歩道を拡幅して設置するのが一番だが、まずは今の路面に区分けの色塗りをするかラインを引いていただいて、児童の安全を確保する検討をいただきたい。

水の工場の誘致の件、ここ何ヶ月か水は金という新聞情報が出ている。安曇野では地下水が下がって大変で、空いている田んぼに水を張らなければいけないと出ていたが、大町の場合はそういう心配はまずないと思う。

市長回答

4つのご質問、ご提案をいただいた。1つずつお答えしていきたい。

まず市営住宅のA棟B棟のエレベーターの設置だが、長い課題であった。ようやく今年の予算に計上することができた。時間のかかったことに対してお詫びを申し上げたい。大原団地は新しくグレードの高い団地なので、それより古い他の団地と比べてあまりにも条件が良いので、バランスということを考えて遅くなったことをお詫びする。今年の予算なのでできるだけ早く設計を進め、自治会の皆さんに説明をした後、いずれにしても今年度内には完成させる。

2つ目の質問の中で、若い方の入居が増えているということで大変ありがたいことである。お子さんの姿が多く見られる地域である。長年の地域の課題であった児童遊園地であるが、市が設置するのか、自治会が設置して市が助成するのか方向が定まらなかったが、自治会主体で設置しそこに市が助成をする方向で固まってきたと伺った。場所が特定できていないので、地域の皆さんで適地の候補を挙げて絞り込んでいってほしい。団地の一部であれば新たに場所を確保する必要がないし経費も掛からないので、そういう場所を中心に選んでもらえばどうかと思う。場所が決まり遊具は年次的に設置していくのか等具体的な手法が見えれば、相談いただいて市も協力したいと考えている。

子供たちが北小へ通う通学路の危険箇所はいままでもたくさんあげていただいているが、最近では木彫りの館のところの安全柵を設置させていただいた。こぶし保育園の跡地は用地が確保できたので、歩道を北東に延ばすことができた。時間はかかったが解決することができた。あとの要望については、8月に入ってから北小のPTAの皆さんと交通安全関係者、警察署にも入っていただいて、全体の危険箇所をどういう方法で改善するのか相談することになっている。その時には自治会の皆さんにも出席いただくことになると思う。県外での話だが通学路に睡眠不足で運転していた車が乗り入れ、大勢の皆さんの命が失われたり傷つけられたということがあった。歩道が設けられるところはいいが、そこまでいかないところの方がむしろ危険箇所ではないかと思う。重点的に地域、学校、PTAからも危険箇所を点検していただき、優先順位をつけて整備を進め行きたい。すべての道路に歩道を設置するのは事業費も莫大なものになるので、できるだけ危険を除去する、ここを直すだけで危険が回避できるという場所を重点的に直していきたいと思うので、具体的な提案をいただきたい。

地下水の問題だが、信濃毎日新聞が「青い金」という水の特集を組んで連載している。その通りで、水は保護しなければいけないのはもちろんだが、それは大切に使うために保護するのであって、使わないようにということではない。有効に使うということである。大町市では昔から恵まれた水を有効に無駄なく使っている。それが問題化しているのが安曇野市である。中信4市では中信地域を1つの水瓶として理解し、皆で

問題を解決していこうという協議会がスタートして、私がおその副会長となつてゐる。安曇野市が困つてゐることは、もう10年、20年になるが穂高川、梓川、高瀬川の合流地点に大王わさび農場を中心とするわさび畑ができてゐるが、そのわさび畑の水位が低下してゐること。また水の温度が高くなつてきてゐる。この原因の特定はできないが、1つには地下浸透する水が減つてきてゐることがある。宅地が増え路面が舗装され田んぼも減反により水を張らなくなつた。また用水路も維持管理が大変なため U 字溝などで水が漏れないようにしてゐる。そうしたこともあり地下に染み込む水の量が減つてきてゐる。もう1つには安曇野市ではこの20年の間に工場がいくつも立地した。工場は機械を洗淨したり製品を製造するため水をくみ上げてゐる。それも1つの原因となり昔からあるわさび農場が直接の影響を受けてゐる。これは安曇野市だけの問題ではなく、地下の水脈は複雑に繋がりが合つてゐるので、周辺の市町村にも協力を要請してきたことは事実である。ただ因果関係が明らかでないので、大町市で水の汲み上げ量を減らしてほしいとか井戸をこれ以上掘らないでほしいとか具体的なものはないが、水を大切に有効に使うという考え方を広めていかなければいけない。ちなみに川の水、表流水は水利権があり法律でも保護されてゐる。大町市の水は生活用水、農業用水、発電用水などとして2回も3回も有効利用してゐるので、表流水については管理がしっかりしてゐる。反面かたくなすぎで新しい利用に向かないということはあるが表流水についてはしっかりしてゐる。地下水については井戸を掘つてくみ上げた人のものである。温泉は隣に沸いてゐる温泉を保護するために近くで掘ることは禁止されるが、水の場合はどこに掘つても掘つた人の権利となる。だからと言ってどこでも掘つていいのか、地下水も皆の水だからルールが必要ではないかという指摘が多くなつてきてゐる。そうした考え方はこれから定着していくと思うが、県の条例、市の条例または法律が制定されない限りルール作りはなかなか難しい。水は大切だということをお皆で考えていく中で、有効な方法を見出していきたい。

東洋紡跡地に立地する工場がどのように水を活用し確保するかということだが、現在東洋紡の跡地には5つの井戸が掘られてゐる。東洋紡が操業してゐるときには、この5つの井戸で1日に1万トンの水を使つてゐた。今回の工場は、敷地内の5つの井戸のいずれかを使つてエアウォーターの子会社が製造する。1日240トン、そのうち水として売るのは120トンくらいなので、1万トンのうちの240トンなら影響を及ぼすことはまず考えられない。今後何らかの影響が出ればもちろんきちんと対応してもらつよう考へてゐる。こうした状況なので影響なく安定した操業ができると考へてゐる。二ツ屋に操業してゐるアルプスウォーターは、大都市へ1日26トントラックで10往復くらいピストン輸送してゐる。これは矢沢水源から川に戻してゐた市の水道原水を、パイプで工場に運んで製品化してゐる。市としては消毒もしてゐない何も手をかけてゐない水だが、その水の代金だけで昨年1年で市の水道会計に2,600万円支払いをいただいた。それにより水道会計が安定してゐる。毎年増える傾向にあるので、水道料金

の値上げは当分ないのではないかと期待している。市や地域にとっても貴重な資源なので、大切に守りながら有効活用していきたい。

出席者

ごみ焼却場の問題だが、私は場所的には野口のアルプス搗精工場付近の土地を利用して造ればいいと思う。そして穂高やラーラ松本のような温泉や室内競技場を造ることも可能ではないか。冬は暖房に使ってもいい。温泉郷の入口にモンリオールがあるがお風呂がない。温泉や室内競技場などセットで考えれば、市民も使えるし温泉郷、モンリオール利用者も使うことができる。あの辺の地籍であればそんなに問題はないのではないか。

市長回答

ご提案の内容は無理ではないと思う。一般廃棄物処理施設は地方公共団体でなければ設置ができない。それは皆さんの生活から出るごみは、地方公共団体が責任を持って安全に処理するということが命題になっていて、全国の地方公共団体が設置している。ごみ処理は商売としてやっているのではなく、地方公共団体が公務として行っている。周辺の住民の皆さんに悪影響を及ぼすことは許されない、という姿勢で行っている。法律で決められている排気ガスの基準をはるかに下回る基準を設定して、それを守るようにしている。大町市では現在山下地区青島でごみ処理をしているが、そこで出る排気ガスの検査を定期的に行い、数値を提示している。地域住民の皆さんにも一緒に立ち会っていただいている。数値は基準値をはるかに下回っている。周辺の皆さんの健康被害は全くない。ではなぜ白馬村や三日町で受け入れられなかったかという、安全だと言っても目に見えない排気ガス、万が一事故が起こったらという心配が残る以上、気持ちの上ではないほうが良いということになりがちである。東京では道路や鉄道の沿線、池袋では駅からそう遠くない繁華街に、またマンションの横に立地しているところもある。それでも周辺の方の理解が得られ安定的に稼働している。最後は気持ちの壁をどう乗り越えていくかということだと思う。科学的に評価し最新設備を造ることを説明しても受け入れてもらえないことを懸念して、自治会でいいですよというところから手を挙げていただくこととした。今ご提案いただいた鹿島川沿岸の地域は影響の少ない地域であるので、地域の皆さんの了解が得られれば候補地の1つとなるが、現在該当の自治会からは提案されていないし、検討が進んでいるとの話も聞いていない。ただ、地権者の関係の方やそうでない方からどうかという提案はあった。私どもとすればお話を承っている段階である。これからは関係自治会の皆さんが検討を進めていいということになれば、候補地の1つとなる。施設ができた時に、どのくらい民家から離れていなければならないとか、近くに学校や病院があってはならないとか法律では規制は一切ないが、心の問題が伴うとすれば、できるだけ

住宅地や学校、病院等から離れた場所が総体的には望ましいと考えている。ただそれが条件になるのではないことを付け加えたい。

出席者

あの場所に施設ができて冬も暖房の入る室内競技場で夜間ゲートボールができる、温泉郷に誘客できる。また今サッカーが盛んだが、子供たちのサッカーが冬場もできるようになる。そんなセットで使える方法を考えてほしい。冬場暖房のある体育館は最高である。

市長回答

一般廃棄物処理施設のことを熱回収施設ともいう。これは炉を焚いてごみ処理をする時に、煙突や炉を冷やすために水を循環させて冷ます。その時にできたお湯をどこでも有効に活用している。ラーラ松本や安曇野にある施設は相当のお湯が採れる。大町の場合も、山下地区の青島の10数件にお湯を配っている。今回新しくできる施設の規模は、3市村合わせても1日40トン。これからさらにごみの減量化を進めるので、そのことも考え規模を小さくしている。40トンから採れるお湯の量はそう多くはない。施設の焼却規模はラーラまつもとで450トン、安曇野市が150トン、大町市が予定している処理量の3倍も4倍もあるので、温水プールとか温浴施設とか整備されている。大町市の場合そこまでは無理だと思う。もちろん加熱してお湯を作り出すこともできるのでいろいろな方法はある。一定のお湯は熱源を回収できるので有効に使うことは大事なことである。例えば温室で冬でも新鮮な野菜を作ったり、パイナップルを作って大町の特産にするとか、温水プール、温浴施設、熱源を使って冬でも快適に使える室内運動場ということもあり得る。受け入れ地域の地域振興策の中に位置づけられてくると期待をしている。

また、冬のスポーツ施設が少ないのではないかということだが、冬も夏も使える施設はたくさんある。体育館であれば一年を通して使うことができる。ただ冬場は暖房しても広い体育館はなかなか温まらないため夏に比べると利用率は低くなるが、大町の総合体育館は冬の間も相当使われている。また野球場の脇に室内運動場があるが暖房も何もないが、私の知っている限り冬でも日曜日の午後1時から7時まで空いている時間はない。ただ冬の間は寒いので、暖房的な設備ができれば利用率も上がると思う。参考にさせていただきたい。

出席者

30数年前から脇道ではあるが道路の拡幅を陳情している。栄町は住宅の新築や道路拡幅とかいろいろあり我田引水的なところもあるが、最近では近道をするため小さな脇道だがかなり交通量が増えた。中学生も通る。狭いがために待っていなければ

ならない。また途中でS字になっていて対向車が見えずバックしたり、事故が起こりそうになることもある。小さな脇道のことだが、このような細かい陳情はどのような扱いをされているのか。細かいことを陳情して受け入れてもらえるのか。

市長回答

一般的な陳情の方法について説明する。市内に全部で97自治会がある。その自治会すべてから陳情があるわけではないが、毎年50くらいの自治会が市及び市議会に陳情という形で提案がある。6月の定例会に向けて3月から5月に陳情が多く出される。その期間に提出されると、当初確保してある道路の維持補修等の市の予算付けに間に合うためその頃に集中する。陳情は箇所数はいくつまでとかこの内容はだめとかいうルールはない。市の様々な政策に要望する内容と、県や国、警察に要望してほしい、市からも協議してほしいという内容も含めて提出される。要望の数も地域の抱える問題によって開きがあり、たくさんあるからと省略されることはない。私と担当課長が30分から1時間かけて全部の話を聞かすが、その中には去年もおとしも要望したがまだ実現していないもの、今年新たに新規に課題が出てきたものもある。要望個所の多い少ないにかかわらず、自治会で優先順位をつけてきてくれるところもある。例えば、ここは要望が多く早急にやってほしい、ここは2、3年かけてやってほしい、こちらについては予算がなければ1年先送りしてもよいなど、自治会で相談して決めてきてくれるところもある。優先順位のついていないところはその場で「この中で優先するものを2つ挙げるとしたらどれですか。」と聞くこともある。5月くらいまでにいただいた陳情のすべてを、自治会の方に立ち会ってもらい現場で確認する。そして予算配分をしてその中で今年やる個所の打ち合わせをする。

栄町も今年には要望が出ているが、どこを優先してやるかは基本的には自治会の要望を優先するようにして担当課もそのように動いているので、自治会の中で優先順位を決めていただくとありがたい。

自治会から上がってくる個所は全部で800か所くらいある。予算の関係もあり一年間で解決できる箇所は150か所くらいかと思う。1つの自治会で要望に応えられるのは1～2ヶ所くらいだと思う。一気に要望に答えられなくて申し訳ない。

出席者

大町病院の地域医療の問題だが、身近に安心できる病院があることは本当にありがたい。私はずっと観光事業に携わっていたので、病院職員であっても接客マナーが大変大事になってくると思う。新聞等でも報道されたが、職員の不正行為が大町市は目立っているのではないか。接客は信頼関係がベースにあると思う。やさしくしてくれれば安心して行くことができる。

もう一つ若者の雇用確保の問題だが、今年の新卒の大学生の就職口がなく、私は

ダムにいるがそういう若者が短期のアルバイトに来ている。いかに就職難かを感じている。先程の水の工場である程度の雇用があると聞いたが、総合的に見て大町市もいろいろな観光施設がありまだ掘り出せば雇用の場があると思う。若者が安心して帰って来られるような雇用確保にもっと力を入れていただきたい。そうすれば活性化につながる。

市長回答

全くその通りだと思う。まず地域医療の関係だが、病院は、市役所もそうだがサービス業である。大町病院では長い間患者さんをお客様と意識しない時代が続いていたようだ。ここ数年は接客マナーの講座や講師を呼んで研修会等開いている。接客マナーが悪かった等具体的な事例が市長への手紙であった場合は、必ず病院へ返して該当する職場ではミーティングを開くなどして改善するよう努力をしている。私が7年前に帰ってきた時は3人に1人は「大町病院を何とかしてほしい。」と、特に接客面について言われた。市長への手紙でもたくさんいただいた。最近は接客マナーが悪いということはほとんどなくなった。病院全体が患者さんに優しく接客するよう心掛けなければならない。

不正行為がいくつもあったと言われたが、いくつもあったわけではなく、この4月に薬剤師がインターネットを通じ、九州の未成年の子どもから写真を送らせた。強制ではなかったが送られた方にすればそれは許せることではない。現在起訴されている。現在辞職の願いが出ているが、受理するわけにはいかない。刑が確定したところで身分上の処分である懲戒処分を行うが、辞表を受理してしまえば自発的に退職ということになってしまう。地方公務員法のルールとして、退職願を受理しないで刑事休職にしている。休職にもいろいろあり給料の6割支給されることもあるが、今回は犯罪原因が濃厚なので支給していない。裁判所で刑が確定したところで処分を下す。刑事上の処分がまだ出ないので今は身分上の懲戒処分は保留ということになっている。厳正な処分をしていきたいと思う。

2番目の若者の雇用確保について、本当に大事なテーマである。身分がきちんと安定した雇用の形で就職できることが望ましいわけだが、工場でも単純作業や交代要員として働く時間的に柔軟さを必要とする場所は、身分が不安定なパートタイマーやアルバイトで対応することが多い。残念なことだができるだけきちんとした雇用形態が準備されるよう頑張っていきたい。そのためにも工場でできるだけ多くの方に就業してもらえるようにしていきたい。単純労働だけでなく、企業の研究所など高度な学問を勉強された方、専門的な知識や経験を積んだ方が就職できるような場所も増やしていかなければいけない。県内を見ても大学で高度な学問を積んだ方が就職できる場所はそうはない。事務職場では、銀行、マスコミ、公務職場、大町市でも限られているので今立地している企業の研究部門などを移転してもらい、または新たに設けてもら

ということも作戦のなかに入れていきたいが、容易なことではない。ちなみに、大北地域の高等学校の今年の卒業生のうち100人が就職を希望して全員が決まった。内容を見ると半数が大北地域の事業所、残りの49人が県内、県外に就職したのは1人だった。工業高校を卒業した生徒がそれを生かせるところに就職できたかは把握していないが、希望に沿った職業に就けるそれにふさわしい待遇が得られるよう頑張っていきたい。

出席者

2つあるが、1つ目として小学校の設備の問題だが、今日も午後北小学校に授業参観に行ったが、最近大町も暑く小学校の教室には扇風機もない。熱中症の防止ということから言えば扇風機くらいはあった方がいいのではないかと。

もう1つは人口の減少について、毎月広報おおまちに出るが、今月も減っているなど見ている。このまま減り続けるのはよくない。今やっている対策、これからやらなければいけないこと、市長の考えを教えてください。

市長回答

大町は昔から自然が豊かで周りに涼風が通れば暑さもしのげるような地域だったが、今は本当に暑くなった。今ちょっとした暑さでも熱中症になる恐れがある。小学校は保健室以外冷房はどこも入っていないと思うが、子供たちがきちんとした環境の中で勉強するのが一番だと思うので、教育委員会でもどのような考えがあるのか持ち帰って聞いて確かめたい。検討の結果は自治会長さんを通じて、文書で回答したい。

人口減少対策について、私が就任してから、10か年の市の長期計画第4次総合計画を策定した。前期の5年が終わり、今年4月から後期の5年計画に入った。行政はどの分野も手を抜くことはできないので、6本の政策の柱を立てた。その中で特に重点的に取り組んでいくことを重点プロジェクトとして、3つ取り上げた。その中のまず1番目が人口の定住対策、2番目が産業振興、3つ目が安心して暮らせる防災などの対策で、最重点項目は人口の定住を図る定住促進対策である。人口の定住の中には3つあり、今住んでいる皆さんにも安心してこれからも住み続けてもらう。それには健康で長生きしていただく。2つ目は、外から移住していただく皆さんの受け入れを進める。3つ目には、今の若い人たちは結婚をしない傾向にある。ちなみに大町市の30代の男性で46%、女性で25%が未婚である。結婚の機会があれば結婚してもいいと思っても、なかなか出会いの機会がない。本来結婚は個人の問題で行政は手を出しにくい分野だったが、4月からは出会いの機会を提供するというので、FM長野とタイアップして6月2日にくろよんロイヤルホテルで婚活イベントを開いた。男性、女性とも50人、男性6,000円、女性2,000円の会費で募集したところ市内外から100人の定員に500人を超える応募があった。機会を求め、いい人とめぐり会える

ならいいという人が大勢いるということが分かった。50組の中で12組の交際のカップルができた。結婚まで至るかどうかはこれからだが、そうした機会を繰り返し設けていきたい。もう1つは6月に有名な講師をお呼びして婚活セミナーを開催した。商工会議所や農業委員会、JAで農業後継者、商店の後継者を探す相談員をしている方を中心に大勢来てくれて、世の中全体の結婚の事情、男性、女性が結婚に対してどのように考えているかなど一般教養の研修をした。私も通して聞いたがなるほどと思うことがたくさんあった。若い皆さんが結婚することにより大町に定住して人口を増やしてくれる。

それから市内に空き家がだいぶあるが、空き家を提供してもいい人を募って登録する空き家バンクという制度がある。大町に移り住みたい、おためしに住んでみたいという人が来たらご案内できる体制を整えた。市の企画財政課の中に定住促進係という3人のスタッフで係を作り、専門に定住対策をする。その場所には椅子を用意して、ゆっくり話ができるような環境を整えた。今日も2組の方が見えていた。その方たちが直ちに定住するかと言えばまだこれからだが、いろいろな情報提供、アピールをしていきたい。それにしても今住んでいる皆さんが生き生きしていなければ外から見て魅力的な地域に見えない。大町市は景色も人もいいところだと感じ取ってもらうことが大事だと思う。

人口の話だが、今住民基本台帳の登録で30,100人くらいで、おととしの国勢調査の時、29,800人余だった。大町に住み票があり生活の本拠があっても、1か月以上出張等に行っている人はカウントしないことになっているので、国勢調査では3万人を割るということになった。1人でも増やすように頑張りたいと思う。

出席者

救急車を呼んだ時の受け入れ先は救急車が決めるのか。7割から8割が安曇病院へ行く。ということは大町では夜間の受け入れ態勢ができていないということか。

市長回答

北アルプス広域消防本部大町署には3台の救急車が置いてある。救急車はまず入院加療が必要かどうかを判断する。それからどの分野か、脳外科か心臓外科かなどにより、今日の夜間の担当はどこか、担当医がいるのか、またいなくてもオンコールで待機してくれているかなどから、病院と連絡を取り受け入れ先を決める。例えば池田町の人が重いけがをして手術が必要な場合、安曇病院は外科の先生が1人しかいないので対応できないが、大町病院は3人いるので3人がそろえば手術ができる。そういうことで住み分けている。特に脳外科の場合は3人いないと手術はできないので、大町病院には連絡なしで違う病院へ行く。安曇病院も安曇野日赤も今は無理である。この辺だと一之瀬、相澤、信大へ電話をする。時間外の対応はどこの病院が今日は

受け入れ可能か、消防本部では把握し確認しながら運んでいる。脳外、心臓の高度な病気の場合は直接専門病院へ運ぶことになる。大町病院に入院したいのに遠くの病院へ行ってしまうということも残念ながらある。特に地域全体の高齢化が進んでいて脳外関係の病気は高齢者に非常に多いことや、交通事故等で脳を損傷した場合には緊急手術が必要になるので、16年に閉鎖してある大町病院の脳外科は何とか再開したいと頑張っている。信州大学、県立病院等ではなかなか相手にされない。手術するには3人の医師が必要だが、たった1人の医師を確保するのが精いっぱいな状態で3人セットで大町病院にほしいというのは、優先順位がまだまだ低い。これから高齢化がさらに進むので、再開についてはあきらめずに取り組みたい。

出席者

こぶし保育園の跡地についてはどうなるのか。

市長回答

こぶし保育園の跡地は市が何かに使うという予定は現在ない。市の各部局に打診をしたが、建物として有効活用する事業計画はなく、老朽化している施設をそのまましておくことは防犯上の問題もあるので、更地にした。関係の公共機関に使う予定がないかさらに確認するが、それでも使う予定がなければ一般公募し、例えば宅地分譲等で有効活用を図ることも検討したい。遊休資産をできるだけ有効活用しながら、財源の面からも多角的に検討していきたい。地域の皆さんから、総合的な福祉施設に使ったらどうかとか冬の間の体育館に使ったらどうかとかいろいろ提言をいただいたがこうした方向で検討していきたい。

自治会長

今日は市長から様々な話を聞け、また皆さんからいろいろな話が出て意見交換ができ非常に良かった。またこのような機会が持てたらと思う。

市長回答

最後にお礼を申し上げたい。皆さん長時間にわたり、お仕事でお疲れの後ご出席いただきお礼申し上げます。聞いていただいておわかりのように市政の課題は山ほどある。昔のように予算がある時代であったら、予算で解決できることもあったと思う。大町に限らず県でも国でもお金で解決できる問題が非常に少なくなっているので行政も一生懸命知恵を絞りたい。

日本中が今まで経験したことのないような人口の減少時代になっている。行政の力だけでは解決できない問題ばかりなので、その時は市民の皆さんと協働の力で何とか解決していきたい。しかし行政が自ら解決していかなければならない問題も数多く

あり、粘り強く解決していく必要がある。一朝一夕に解決できることではないが、決してあきらめることなく頑張っていきたいので、これからもご協力をお願いしたい。

また今日手を挙げられなかった方でも、アイデアや提案が浮かんだらなんでも結構なので、手紙やメールで送ってほしい。先月号の広報に、黄色い市長への手紙の用紙が入っているので利用してほしい。必ず目を通し担当課とも相談し、最後に私のサインを入れてお返ししている。具体的な内容であればあるほど、私たちが考えていく材料となるので遠慮なく言ってほしい。担当課に言っていただいて解決することもあると思う。どうか市役所をうまく活用してほしい。

5 閉会 栄町自治会長

【終了 20:35】